

令和4年度 甲子地区前期地域会議 開催結果

1. 日 時：令和4年6月28日(火) 18時30分～
2. 場 所：松倉地区コミュニティ消防センター
3. 出席者：地域会議構成員他 別紙のとおり（省略）
釜石市 別紙のとおり（省略）

4. 質疑応答の概要

質問： 一番の事案について、早期の実施は困難との説明だが、将来どの程度見込めば実施可能か。

回答： とても難しい質問である。実際の現場を見ると膨大な金額かかると思われ、市の単独事業で整備することは難しい。国の予算の活用も考えているがこちらも難しい状況である。

今、直ぐ回答はできないが、例えば、子供の安全確保ということで、違うルートで登校することも可能だと思う。

関係者と協議しながら子供の安全を考えて対応していきたい。

意見： 今の説明で、まずは納得した。ただ、このままおざなりにするのではなく、できるだけ早く実現できるような努力をしていただきたい。

これは、地域の要望である。子供たちは私たち松倉の財産、今後前向きに検討していただくようお願いしたい。

回答： 頑張ります。

質問： 考え方をご参考までに教えていただきたい。

新庁舎を今計画している場所に建てた場合、震災が発生した時に市と消防、警察が集まり対策本部を設置することが非常に大事だと思っている。

今回、ハザードマップを見て、津波が来て道路が封鎖された時、新庁舎の場所で市と消防、警察が対策本部を設置できるか非常に心配だと率直に感じた。このことについてどう考えているか。

また、鈴子に立派な公園造っていただき、そこで遊ぶ子供達を見て本当に嬉しかった。新庁舎に市民の方々の方がもっと足を運んでもらえるような施設も一緒に検討しているか。

回答： 災害対策本部機能について、現在の新庁舎の場所だと津波が来るから、内陸部に建設となると、今度は洪水の問題がある。

機能の使い分けが必要と考えており、大津波警報の際の災害対策本部は小佐野の市立図書館の二階で対応することで準備している。また、洪水等の際は新庁舎の方に設置するといったよ

うに、災害によって使い分けし、災害対策本部の設置に支障が出ないように対応したい。

回答： 続いて市民の方々がもっと足を運んでもらえるような施設ということについて。本日平面図等を持参していないが、建物エントランス入って右手側に少し遊んだり、或いは、催し物みたいなものを実施出来る空間を合わせて整備する計画である。

質問： 甲子公民館を利用しているが、その際気付いたことがある。公民館駐車場入口に鉄板が敷かれており、車が出入りする際にすごい音を立てる。

公共の場なので、何とか改善して欲しいが、所長はどう考えているか。

回答： 今から4、5年前に、段差があり車が入る際に危険だということで、有志の厚意で鉄板を敷いていただいた。ご指摘のとおり車が段差に乗る度、鉄板の音が出ることは認識している。

今後、この要望については、まちづくり課、市の関係課と協議し、対応方法が決まった際は皆さまにご報告する。

回答： 先ほど現場を見たが、酷い状況なので今後センターなどと協力しながら考えていく。

報告： また別な話にはなるが、階段の上り降りが大変だというご意見あったことから、椅子式の階段昇降機を設置する。こちらの公民館は、申告会場にもなっていることから、皆さんに安心してお使いいただけるよう環境整備にも努めたい。

質問： ハザードマップの内容を見たが、今、異常な雨降がるのはもう常識である。避難所をどのように考えているか聞きたい。どこに逃げれば安全なのか教えて欲しい。

回答： おっしゃるとおり、想定以上の雨が降る。拠点避難所として市内19ヶ所あるが、その都度、災害対策本部の中で安全な所を見定めながら、避難所を開けていくことを考えている。

質問： 実際、多少安全と思うところを具体的に示して欲しい。ここだと甲子小学校であるが、甲子川が溢れた際、洞泉方面から来れるのか。

こういう問題が常にあることから、検討ではなく具体的に考えておかないと、来月異常な雨が降ったらどうするのか。具体的な考えを聞きたい。我々が考えなきゃダメか。

回答： 検討ではなく、例えば甲子川はどこで決壊し、どこに避難するかを、その都度判断したい。旧大松小学校の体育館、甲子小学校、甲子中学校がこの地域の避難所になっているので、ここで対処していかなければならないと考えている。

ご質問の趣旨は重々分かっているが、今のところこのような形での対応しかできない。

意見： 各地区の防災計画ということで、各消防の方や町内会の方が集まり、各地区の防災計画をハザードマップを見ながら作った。今回、最大想定で出てきた中で、それを見ながら作り直すということはやらないのか。

これから検討すると言うが、各住民の方々や私たちも一緒に入りながら相談にも乗れるので、作り直す必要があると思う。

防災計画を早急に見直さないままだと、大きな洪水で大変なことになるのでお願いします。

回答： ハザードマップの話があった。津波の関係では9月を目途に避難場所等の見直しをしたいと思っている。併せて洪水等の方も、住民の皆様方から、今のようなご意見があれば、見直していきたい。

意見： これからの釜石市の発展として、何か考えてるなら述べてもらいたい。

昔は観光では、はまゆりという船があった。交通の便もインターも出来て良くなったので、来客の受け入れをやって、素通りさせるのではなく、釜石に寄って良かったと思われるようになれば良いと思う。このような観光の件をお願いしたい。

回答： 観光ですが、釜石市は震災後、これまでになく観光に力を入れてやってきた。

観光推進のため第3セクターの釜石DMCを作り、観光の10年間の計画も作り直した。特産品開発の支援制度も全部リニューアルし、お迎えできる体制は着々と整っていると思っている。

実は釜石DMCは、着地型観光というお客さんを連れて来る専門の会社だが、実は今も企業研修や学生の合宿等を誘致しており、週末の度にそのような方々が釜石に来ている。

このように、少しずつ成果は出てきているが、今後もっともっと頑張り、釜石に来てもらえるようなまちづくりを市長以下で進めていきたい。

また観光の他にも、SMC工場の拡張、専門学校誘致も進めており、様々チャレンジしており、そのような成果をこのような場で報告できるようこれからも頑張っていきたい。

質問： 先ほどSMCの話が出たが、この規模と大体の雇用がどの程度になるか聞きたい。

また、釜石道や三陸道が出来たことに伴う、流通拠点や誘致企業の状況はどのようになっているか。

回答： SMCの件だが公表されている範囲でとのことをご理解いただきたい。工場は、年内には完成する見通しと伺っている。年明けには、詳細が発表になる予定だが公式な発表がないことから、情報がわかり次第皆様にお知らせしたい。

流通拠点だが、釜石が縦と横の道路の結節点となり、釜石港が岩手県唯一の国際コンテナを扱う港となっていることから、流通拠点に充分なりうると思っている。

現在コロナの関係で釜石港に入るコンテナ取扱量が伸び悩んでいるが、令和4年になってから、一番取扱量が多かった令和元年より少し少ない程度まで盛り返している。

このような市民の皆さんが明るい気持ちを持ってもらえる情報を、今後も逐一報告して参りたい。

【市長総括】

本日は皆さんどうもありがとうございました。いろんなご意見を頂いた。

一つは津波の話だが、甲子は津波よりは、洪水とか土砂災害の方が身に迫る危険だと思う。

まず一つは、緊急避難場所と避難所の違いです。

災害が発生したときに、どこに逃げるかという、それは緊急避難場所です。また、避難所とは一定の安全が確保された後に、その後避難する所となっている。これが違いです。

また先日、テレビで釜石の避難者が少なく、他の所では多い避難者数が出る。これは避難指示を出すエリアが違うことが今回分かった。エリア対象者の分母が違うので数字が違ってくるので数字を比較することに意味がないということ。

問題は、自分が今いるところがその避難指示のエリアに入っていることをきちんと把握してもらわないと意味がない。どこへ逃げるかということです。

気象庁の精度が上がっており、非常に早い段階から気象情報を出すので、事前の避難が可能になった。特に、体の不自由な方や支援が必要な方々は、事前に逃げる必要があるが、その場合、安全な場所に住んでいる親戚、知人、友人の場所へ避難してもいい。必ずしも避難場所でもなくても良いことをご理解いただければと思う。

ただ、やはり心配だという方々のため、遠野市と連携協定を結ばせていただき、遠野の運動公園を緊急の避難場所とした。心配な方は、車で避難していただきたい。ただし、市はバスを出せない、自分たちで行って頂きたいと思う。その際、釜石市からは担当者を配置する。

基本的には、避難は自分で逃げるのが一番肝心なことであります。今はもう自分の命は自分で守る、一人一人がその自覚を持ってくださいというのが国の方針です。

しかし、どうしても一人で逃げられない方もいることから、国の方針で、避難行動要支援者の個別計画を作ることになっている。今までは名簿だけだが、今後は助ける人も配置することになっている。

ですが、助ける側の人は責任持てないという方が圧倒的に多く、この個別計画もなかなか進んでいない。

このことから、自助、公助、共助の役割を分けながら取り組む必要があり、地域では自主防災組織が大事になってくる。

東日本大震災後、自主防災組織について少し疎かになってしまったので、これを契機に、改めて地域の皆さんと連携しながら、自主防災組織をもう1度確認していくことにしている。今後、担当が町内会へ出向いていくので、その際は是非協力して欲しい。

甲子地域は津波がない分、少しはリスクが少ないと思うが、近年のこの土砂災害は非常に危険ですので、本当に心配している方が多いと思うのでご協力をお願いしたい。

また、釜石の観光関係の情報が、釜石復興新聞がなくなり皆さんに行き届いていないようであるが、良い話が沢山ある。

例えば、先ほど釜石港の話が出たが、国内に沢山の港がある中でポートオブザイヤーという賞を頂いた。また、ラグビーワールドカップが開催された当市が、ワールドラグビー年間表彰式でキャラクター賞を受賞した。更に、世界ラグビースタジアムトップ20に国内では鶴住居復興スタジアムが選出されている。SMCの企業誘致の件も、工場建設も順調に進んでいる。いろいろあったがやっと何とか形になり、また、鶏のオヤマという会社が釜石に立地してくれた。魚だけじゃなくて鶏肉も、釜石からいろいろなことが発信できるようになると思う。魚の

養殖の方は、まずはサクラマスをやっており、近々皆さんに名前を披露できると思う。このようなことを、今一生懸命やっている。

ただ、頑張っても人口減少はなかなか歯止めがかからない。釜石だけではなく他市町村も頑張っているので、地域間競争になっている。

特にこの甲子地域の道の駅から西方について、観光の何らかの企画を作っていくことが大きな目標となっている。

これからは被災地域ではない、甲子や橋野などへ目を向け、その地域の皆様が安心して暮らせるようにしていきたい。

先ほど空き家の話があったが、大松の皆様からの地域課題で出された空き家が、釜石市で第1号の略式代執行として壊される。釜石市には空き家は1,000件ほどあり、毎年100件位ずつ増えている。空き地の所有者がきちんと処理していただければ問題ないが、そのまま放置される場合が多い。

略式代執行は市がお金を出して壊すため負担となり、経済が厳しい現在において、更に負担を強いられることになるので、非常に厳しい状況である。

ただ、ふるさと納税で10億ぐらいあり、ほぼまるまる地元に入るお金なので非常に助かっている。これをもっと増やし財源を確保できればいろいろ出来るので、それを目指しながら一步一步前進していきたいと思う。

本日、いただいた様々な課題については、各担当者も聞いたと思いますので、次回お邪魔する際は、少しでもいい話ができるようにしたいと思っている。

今後も甲子地域会議の皆さまと一緒に、地域づくりをしていきたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。本当にありがとうございました。